

背景・課題

- 情報セキュリティの確保に関して、約8割の国民や企業が不安
- 自ら対策を講じていても、日本人は情報セキュリティに対して漠然とした不安を抱えている(国際比較)

利用環境の変化

- ・スマートフォン等モバイル環境の高度化
- ・SNS等新たなメディアの台頭
- ・クラウドコンピューティングの利用拡大

利用者層の変化

- ・高齢者層のインターネット利用の増加
- ・SNS等新たなサービスを活用する若年層の増加

情報セキュリティ脅威の高度化・多様化

- ・悪質なウイルスやボットの多目的化
- ・従来では考えられなかった攻撃の出現

基本的な考え方

情報セキュリティ文化の定着

情報セキュリティに係る取組を、特殊なものとしてではなく、一般常識、マナー、あるいは社会的習慣として広く国民全体に定着させるため、官民連携・国際連携を強化しつつ、無関心層への対策や高齢者や若年層等利用主体の属性に着目したきめ細やかな対策を推進するとともに、年間を通じた継続的な取組の定着化を図る。

※)「情報セキュリティ文化」6原則:「認識」、「責任」、「対応」、「協調」、「倫理」、「再評価」をいう。

具体的な取組

総合的・集中的な普及・啓発施策の推進

- ・「情報セキュリティ月間」の充実
- ・「情報セキュリティ月間」10月開催の検討

教育の充実及び学習機会の提供

- ・情報セキュリティに関する教育の充実
- ・情報セキュリティに関する教育用コンテンツの充実

普及・啓発を促進するためのインセンティブ措置

- ・表彰制度、情報セキュリティ・コンテスト等の活用

国民に対する普及・啓発施策の推進

- ・「国民を守る情報セキュリティサイト」の充実
- ・自己診断チェックリスト、高齢者向け資料の作成
- ・情報セキュリティ無関心層等に対する普及・啓発
- ・情報セキュリティ相談窓口の充実
- ・情報セキュリティに関する事故等の事例の収集・共有化

企業に対する普及・啓発の推進

- ・企業のトップの意識改革
- ・中小企業への対策

国際連携の強化

- ・日・ASEAN関係の連携強化
- ・APECとの連携強化
- ・欧米諸国との連携強化
- ・普及・啓発ポータルサイト(英語版)の充実

サイバー犯罪抑止のための広報啓発の推進

- ・情報セキュリティに関する講習の実施
- ・サイバー犯罪の被害防止対策の推進
- ・サイバーボランティア育成の推進

